

「トライ・Try」してみる

公益社団法人 日本防犯設備協会 理事
株式会社セノン 取締役常務執行役員 上倉 秀之



年を重ねてくると新しいことに取り組むのが躊躇するようになりました。そこで最近は、「チャレンジ・挑戦」ほどにはハードルが高くないことに、少しだけ「トライ・試みる」ことをしています。最近取り組んでいる「トライ」を二つほどご紹介します。

◆多摩川散策と小鳥の写真

私の住んでいるところは、多摩川のほとりなので様々な鳥がいます。

あまり運動するたちではないので、ランニングや散歩は三日坊主でした。見かねた家族が誕生日にカメラをプレゼントしてくれたのを機会に、多摩川沿いに小鳥の写真を撮影して歩いてみました。子供たちと多摩川の支流で小魚を釣っていた時に見かけた綺麗な小鳥の写真を撮ってみたいと言ったことを覚えていてくれてプレゼントしてくれました。

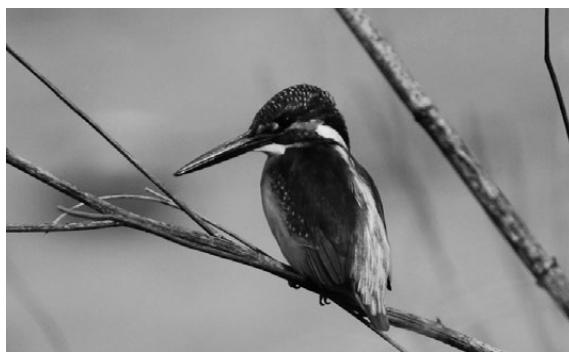
とは言えカメラは素人なので、最初は全てオートで撮ってみましたが皆ピンボケでした。鳥は被写体が小さいのでピントが周りの枝や葉に行ってしまい、肝心の鳥に合わないので。そこで、ピントだけは手動で狙ってみました。

キヤノンのカメラとレンズですが、望遠は250ミリです。私にはそれ以上の望遠レンズでは、多摩川散策に大きく重いので250ミリを付けて歩いています。

小鳥の写真を撮るようになるまでは、スズメ・カワセミ・ハト・カラスくらいしか判りませんでしたが、歩いてみると多摩川には様々な鳥がいます。撮影しては図鑑やネットで名前を調べてみました。

多摩川の中流域は水も綺麗になり鳥がたくさん住んでいます。小さな鳥ではスズメ、カワセミのほか、アオジ、シジュウカラ、コゲラ、エナガ、カシラダカ、ホオジロ、ウグイス、ヒバリ、タヒバリ、メジロ、モズ、セッカ、オオヨシキリ、エナガ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、カワラヒワ、ツバメ、イワツバメ、ジョウビタキなどが姿を見せます。大きな鳥では、ダイサギ、アオサギ、コサギ、コハクチョウ、マガモ、ヒドリガモ、オオバン、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、キジ、カワウなども見ることができます。

鳥は勝手気ままで、いくら歩いてもなかなか見つからない時がある一方、出発して直ぐに目当ての鳥と出会えることもあります。多摩川の散策をするようになって歩くのが億劫でなくなりました。ゴルフのスコアも



カワセミ



コゲラ

少しは良くなった気がします。

小鳥の撮影では、目立たない服装が大切なようです。普段着ではなかなか小鳥に近づくことができません。迷彩服を着るようになって、小鳥との距離を少し詰められるようになりました。カメラ片手に近所の散策、貴方もいかがですか。新しい発見があるかもしれません。

◆サバイバルゲーム

最近の若い人のレジャー志向を探ってみようと思い、サバイバルゲームもやってみました。年齢的にも50代後半なので、これ以上年が進むと試すのも無理との思いもあり、元々ミリタリーには興味があり服装が多摩川散策で着ている迷彩服が使えるため「試して」みました。

サバイバルゲームは、直径6ミリのBB弾を撃ち合うゲームです。射程距離は40メートルほどです。目にあたると危ないため専用のゴーグルは必須です。ゲームは専用の「フィールド」と呼ばれる有料のゲーム場で行われ、屋内と屋外のゲーム場があります。

参加者は注意事項などを聞いた後、二チームに分かれます。知り合いもいれば、初対面の人もいます。初心者もベテランも「チーム」に分かれてゲームを行います。「ゲーム」は陣取り合戦です。相手の陣内に攻め込み「ブラック」を取った方が勝ちとなります。プレーヤーは遮蔽物や木立、ブッシュに隠れながら撃ち合います。BB弾が当たった人は「ヒット」とコールしてゲームの場所から外に出ます。完全に自己申告制なので「紳士の遊び」です。ゲームは10分程度で、休憩時間に弾の準備や水分補給を行います。

一人でもグループでも参加でき、銃などの共通の話題でチームのメンバーとも会話を弾みます。知らない同士でも持っている武器の特性や体力に応じて連携して相手を倒す遊びです。互いの人間関係がドライで、遺恨が残らない(相手も隠れるので誰から撃たれたかわからない)ところは今の若者向きかもしれません。参加者は若い男性が多く、女性と中高年は少数派です。サバイバルゲーム自体が最近プレーヤーやゲーム場所が増えてきているレジャーですのでこれからゲーム人口も増えると思います。

やってみて感じたのは、運動不足の解消には最適です。野山を走りますし、10分単位ですので運動量は自分でコントロールできます。疲れたら次のゲームをパスして休憩することも自由です。何より、運動後に屋外で食べる昼食はカレーや弁当ですがとても美味しいです。銃は各メーカーから様々な特性のモノが売り出されており、自分のプレースタイルで選ぶことができます。銃を含め装備を借りることもできますし、自分なりにカスタマイズすることも可能です。弾の初速などは一定の基準がありますが、命中率を上げるために工夫できることも魅力の一つです。

何か新しいことに取り組むことが段々減って来る年齢になってきました。体力や時間など色々理由をつけてやらない事が多いこの頃ですが、せめて「面白い」と思うことはやれるうちに「トライ」してみようと思います。



装備一式



雰囲気